

**犯罪・行方不明からみる地域社会の脆弱性と高齢者支援の課題**

○ 追手門学院大学 古川 隆司 (会員番号 02430)

キーワード：社会的孤立，地域社会の脆弱性，地域包括ケア

**1. 研究目的**

高齢者の孤独死が社会的な関心を集めるきっかけは 20 年前の阪神・淡路大震災であった。被災者の孤立や社会関係の途絶による孤独死は、のちに震災関連死ととらえられるようになった。災害が社会の脆弱性という構造的課題を顕在化させる（大矢根・浦野・田中：2007）との指摘は、今日増加する高齢者犯罪や認知症高齢者の行方不明は、地域社会の状況を反映することにつながる。いいかえれば、いま現れつつある高齢者・地域社会の脆弱性と向き合うこと抜きに、社会福祉の制度および実践の今後を展望することはできない。本報告は高齢者の社会的孤立に絞って脆弱性をとらえ、今日進められている地域包括ケアの展望と課題を検討する。

**2. 研究の視点および方法**

先行研究等のレビューから脆弱性と社会的孤立の概念枠組を設定する。次に高齢者に対する様々な支援を事例的に概観・類型化を通して課題を設定する。ここでは社会的孤立として①認知症高齢者の行方不明等，②高齢者犯罪をとりあげ，統計ならびに過去の調査による事例から。これに対する吟味を行い，地域社会の脆弱性を実践及び制度の面から分析して，最後にまとめを行う。

**3. 倫理的配慮**

本研究は本学会及び勤務先の研究倫理規程を遵守して取り組んだ。また複数専門家による助言とチェックを受けている。なお本研究で用いる事例は，対象者及び関係機関の同意など適切な手続を経て実施した調査結果によるもので，個人情報並びに業務上の秘密事項を踏まえ本研究の目的に基づき加工した。

**4. 研究結果**

(1) 概念整理 1) 脆弱性と社会的孤立／ 金子と児玉は経済学と生命科学の対話的文献の中で，現代社会の経済システムでは，モデルから排除された部分による調節が市場経済を維持していることを指摘した（金子・児玉 2004）。これに着想を得ると，社会的孤立が高齢者の所在不明や犯罪など周縁化された問題として顕在化する。つまり地域社会の脆弱性の兆候と捉えることにしたい。 2) 高齢者の支援／ たとえば地域包括ケアは民間の研究報告書が提起し，2013 年度から高齢社会対策に反映されている。要介護状

態に陥っても地域社会で生活が継続可能な「住居・医療・介護・生活支援の一体的な提供」であるが、これは公的サービスと地域住民の互助すなわち住民参加が前提となる。住民参加を促すためには、①共通の生活課題、または②関心の低い住民にとっても共有できる課題のいずれかが要請される。さらに高齢者の社会的孤立への支援を念頭におけば、支援組織の他、法的な権利擁護や住宅管理等に関わる法律や金融にまたがる支援体制など拡大する。反面これは自己完結性が強く、困難ケースに直面しても「抱え込む」傾向がある。

(2) 認知症高齢者の行方不明からみて／ NHKのドキュメント番組はこのテーマを10年前と昨年放映したが、実に10倍の増加がある。だが行方不明となる徘徊など認知症者の行動障害への対応は、行方不明に加え自動車の逆走など交通事故も見逃せない。これらは交通手段の限られる地方ほど問題が深刻で、社会生活における移動手段を含め、地域包括ケアにおいて「望ましい生活基盤のありかた」を検討する必要性を提起している。

(3) 高齢者犯罪からみて／ 刑法犯となる者の高齢化が急速に進んでいる。法の下の平等から罪に対する処分を行うため刑事施設の高齢化は深刻だ。また出所しても再犯する割合も高い。また近年、要介護状態の高齢者等は社会福祉による出所支援が進んでいる。犯罪からの更生はソーシャルワークの職域でありながら、行政の縦割りを反映した日本の社会福祉専門職は、認識や教育訓練も不十分なため、手つかずの社会的孤立として残っている。インタビュー調査や質問紙調査等を通し、高齢受刑者の多くが頼れる人間関係がなく、刑務所以外に居場所が見いだせないと回答している。ここからソーシャルワークの役割として、社会関係と所属について(藤原・古川編 2013)。

## 5. 考 察

高齢者の社会的孤立を以上から検討する限り、課題が多方面にまたがるため支援の課題を際限なく拡大させる。またこれに取り組む各自治体では課題の拡大化に直面している。

1990年台以降保健・医療と進めた介護の整備により社会福祉との連携は一定水準に達した。今日の高齢者支援はいうまでもなく社会の脆弱性を反映した実践の対象である。この他にも生活困窮者支援や民間無認可の介護施設の増加は、別の社会領域と社会福祉が連携する必要性を増している。結論として、社会福祉が地域包括ケアの枠組から一步距離をとり「俯瞰する視野」に立つ必要があること、そして高齢者の社会的孤立が映す今後の社会の脆弱性に対する感受性を研ぎ澄ます専門性が要請されていると考える。

【参考文献・資料】大矢根敦・浦野正樹ほか(2007)災害社会学入門, 弘文堂/金子勝・児玉龍彦(2004)逆システム学, 岩波書店/古川孝順(2009)社会福祉の拡大と限定, 中央法規/西尾祐吾・大塚保信・古川隆司編(2010)災害福祉とは何か, ミネルヴァ書房/地域包括ケア研究会(2009)地域包括ケア研究会報告書/加藤・前田監修; 藤原・古川編(2013)司法福祉, 法律文化社